



# Weekly Market Report

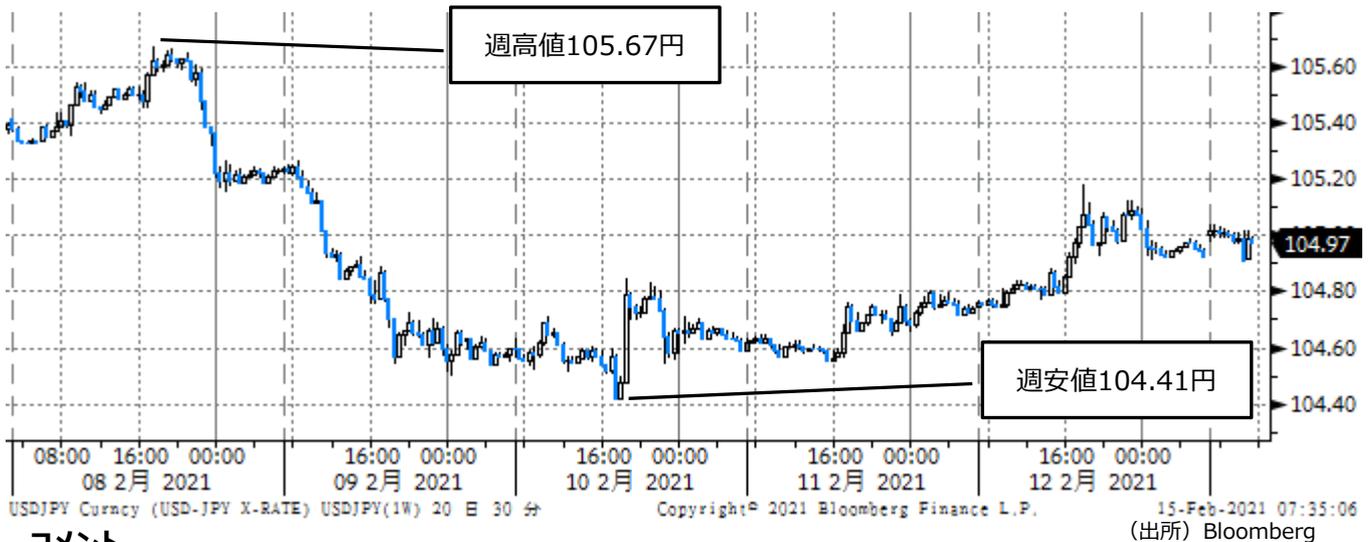
Feb 15, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

引き続き米追加経済対策の行方に注目。

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

先週末の米ドル円は1米ドル = 104円台半ばから105円台半ばでのレンジで推移。週明けは前週末からの株高でリスク先行が続く中、米金利が上昇したことやバイデン新政権の追加経済対策への期待感から週高値の105.67円まで上昇。しかし、そこからは上値が抑えられ、200日移動平均を背景にした売り圧力や米長期金利の低下から米ドル円はじり安に推移し、週半ばにかけて週安値104.41円まで下落。その後も米消費者物価コア指数が予想を下回ったことや、FRBパウエル議長が当面引き締めを行わないというハト派的な発言をしたことが重しとなり、週半ばでは104円台後半でもみあう展開。週末には米国株が上昇する中、米長期金利が上昇したことで105円近辺まで円安に進行し越週となった。今週は米小売売上高とFOMC議事要旨に加え、引き続きバイデン新政権による追加経済対策の行方が注目材料。経済対策が難航した場合は米ドル売りの流れとなるが、成立しても材料出尽くしの米ドル売りに動く可能性があり、円高米ドル安方向に推移すると予想する。  
(市場営業部/塚田)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
2/17(水)	(米国) 小売売上高	1.0%
2/17(水)	(米国) 鋳工業生産	0.4%
2/18(木)	(米国) 住宅着工件数	166万件
2/19(金)	(米国) 製造業PMI	58.5
2/19(金)	(米国) 中古住宅販売件数	661万件

### USD/JPY (5年間)



### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山下航平	104.50 - 105.50	米長期金利が高値圏で一服となり、米ドル円も合わせて狭いレンジでの推移を予想。週半ば以降の米経済指標に注視。
福永純一	103.50 - 106.00	米金利上昇によるドル買いサポートにより米ドル円は底堅く、方向性が出づら展開を予想。米小売売上高・PMIに注目。

## 2. 円金利相場概況

米国追加財政支援策への期待からスティーピング圧力の強い展開か

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



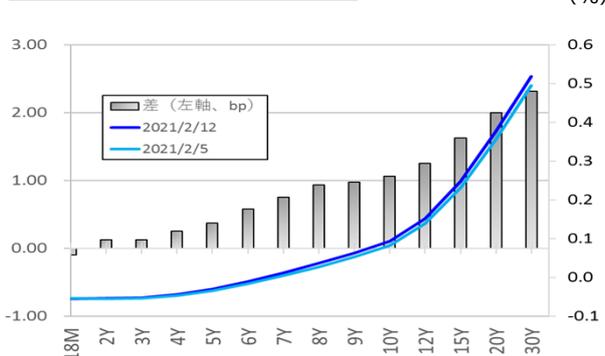
(出所) Bloomberg

### コメント

先週の10年国債利回りは0.060-0.085%のレンジで推移。週初から週央にかけては米国の追加財政支援策への期待から米30年国債利回りが2.00%まで上昇したことで日本国債市場もイールドカーブ全般に金利が上昇する展開となった。債券先物については火曜日まで10営業日続落となり、2003年の過去最長記録に並んだが、水曜日に行われた超長期ゾーンの流動性供給入札が応札倍率3.1倍と強い結果になったことや、同日引け後に「日銀が3月点検でマイナス金利の深掘り余地の存在を明確化する」との報道があったことを受けて大きく反発している。今週も米国追加財政支援策への期待からスティーピング圧力の強い展開となりそうだ。火曜日に5年国債、木曜日に20年国債の入札が予定されているが、超長期ゾーンには機関投資家からの押し目買いがみられる一方で3月の日銀政策点検への警戒から慎重なスタンスを継続する投資家も多く、20年国債の入札結果は注目といえる。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.05% - 0.09%	米国の大規模財政出動懸念や3月の日銀点検を控え、円金利も上昇しやすい地合いが継続する展開を予想。
小野口裕美子	0.05% - 0.10%	3月の日銀政策点検での金利の変動幅拡大を警戒して円金利は上昇しやすい状況が続く。

### 3. 米国株式トピックス

#### アフターコロナを見据えた半導体市場の動向

##### SOX指数について

フィラデルフィア半導体指数は「SOX指数」とも呼ばれ、Nasdaq PHLXが算出、公表する半導体の設計、製造、販売、流通を手掛ける企業の株式で構成される調整時価総額加重平均指数を示す。代表的な構成銘柄としては、Intel、NVIDIA、AMD、QUALCOMM等が挙げられ、全30銘柄で構成されている。SOX指数は、1993年12月1日を基準値100として算出されており、直近は3,219.87ポイント（2021/2/12日時点）を記録している。近年は、米国株式の代表的な指数であるS&P500指数、ナスダック総合指数に比べても高パフォーマンスを記録しており（下表【図1】、【図2】）、時価総額も増加している。また近年はIoTや5G関連などのハイテク企業の代表的な指数と目されており、世界経済の先行きを占う上でも非常に重要な指数とされている。

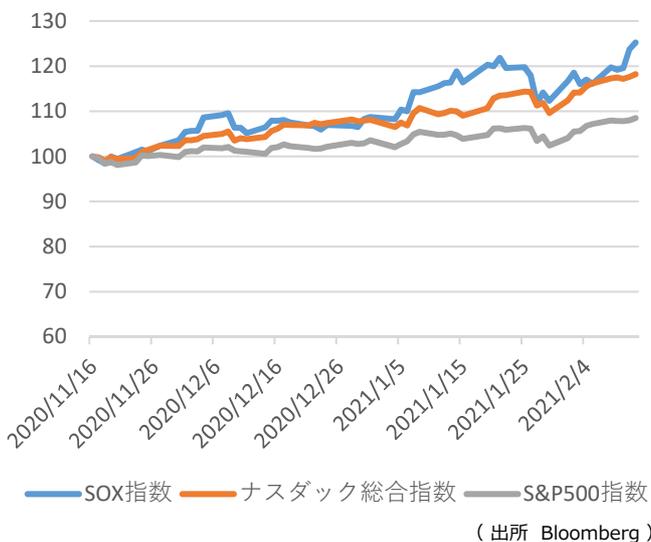
##### コロナ禍による半導体市場への影響

新型コロナウイルス感染症は、世界の感染者数累計が1億人を突破するなど感染拡大が継続している。そうした中で世界の半導体市場は5G対応のスマートフォンの増加、テレワークの普及などのライフスタイルの変化に伴い、半導体需要が増加。WSTS（世界半導体市場統計）によると、2020年度の市場成長率は前年比+5.1%と予測しており、2021年度は+8.4%と過去最高額を更新する予測となっている。新型コロナウイルスにより、打撃を受けている世界経済の中においても、堅調に推移していることが分かる。それに伴い、過去1年のSOX指数も大幅に上昇しており、上昇率は約60%に及んでいる。

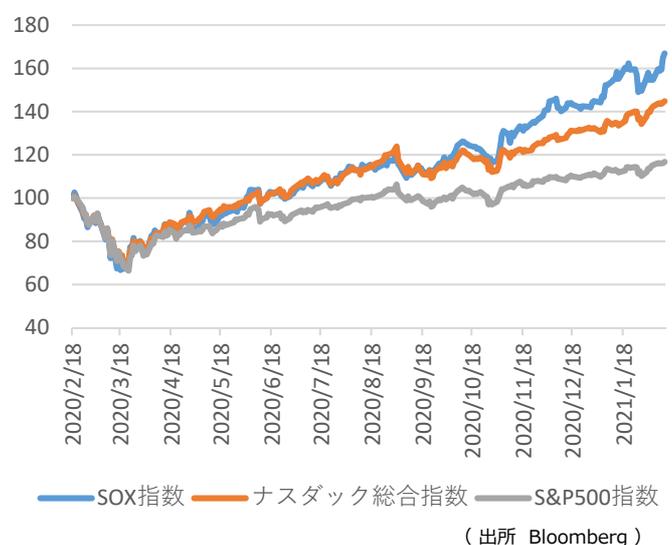
##### 今後の市場展望

新型コロナウイルス感染拡大は継続しているものの、半導体市場については、コロナ禍をきっかけとした社会構造の変化が追い風となり、需要が増加している。また世界ではワクチン接種が始まるなどコロナ禍終息に向けた動きが加速しつつあり、金融市場においては各国の中央銀行による金融緩和政策も相まって、世界の株式市場が昨年のコロナショック以後は大幅な上昇を記録しており、SOX指数も同様の動きとなっている。一部では直近の株価上昇を「過剰流動性相場」との指摘があるものの、半導体企業は好決算が相次いでおり、SOX指数の構成銘柄であるAMDが直近発表した決算では、通年の売上高が前年比で40%以上増収することが確認されていることなどから、足許の株高は企業の好決算に伴うものであると見られる。また、足許の半導体企業の好決算に加えて、WSTSの2021年度の予想成長率を踏まえると、今後もSOX指数は堅調な推移が期待できる。また下表のとおり、SOX指数は米国株式主要指数を凌ぐパフォーマンスを発揮していることから、今後の米国株式市場を占う上で、今後の動向に注視したいと考える。（市場営業部/梅村）

【図1】SOX指数と米国株式主要指数の推移（3か月）



【図2】SOX指数と米国株式主要指数の推移（1年）



## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会